

## はじめに

我が国では、1990年(平成2年)に「地球温暖化防止行動計画」を策定し、二酸化炭素排出量を「2000年以降1990年レベルで安定化させる」という目標を達成するため、各種の温室効果ガス削減対策を推進してきた。しかし、1998年における二酸化炭素排出量は1990年に比べて既に5.6%増加しており、2000年の達成は極めて困難な状況にある。一方、1997年(平成9年)に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)において京都議定書が採択され、我が国は、温室効果ガス排出量を基準年\*)に比して6%削減することを約束した。政府の地球温暖化対策推進本部は、これを受け1998年(平成10年)に「地球温暖化対策推進大綱」を策定し、各部門ごとに取り組むべき具体的対策と削減目標量を明らかにして取組を進めてきている。しかし、個々の対策を具体的に推進する制度、資金等が十分整備されている状況ではない。

本年1月に発表されたI P C C (気候変動に関する政府間パネル)の第3次評価報告書第1作業部会報告書では、従来の予測を上方修正して、2100年にはおよそ1.4~5.8度の温度上昇が生ずるとの予測が出され、地球温暖化問題は、一層差し迫った問題として認識されつつある。また、I P C Cの第2次評価報告書では、大気中の二酸化炭素濃度を安定化するためには、ただちに50~70%の温室効果ガスを削減する必要があるとされているとおり、京都議定書に定められた先進各国に対する削減割合は、それだけで十分なものではなく、第一約束期間以降もさらに抜本的な対策が求められる。

温室効果ガスは、あらゆる経済社会活動に伴って排出されるものであるが、その削減を図ることは、社会経済活動の自由を制限しかねないとする見方もある一方で、エネルギー、交通などのシステムの転換は、新たなビジネスと雇用を生み出し、新しい環境規制に適合した製品開発への努力は、我が国の経済の国際競争力を付けることへとつながると言える。また、温室効果ガスの排出量削減の検討にあたっては、グローバル化、エネルギー市場などの自由化、地方分権化、IT技術の進展等、我が国の将来像の在り方を踏まえた検討を行う必要がある。

このような状況の下、平成12年9月に環境庁(当時)において、「温室効果ガス削減技術シナリオ策定調査検討会」を設置し、1990年以降の排出量増減の要因を明らかとするとともに、現行の対策によって、2010年にどれだけの削減量

が見込めるか、また、今後、技術的、時間的（2010年まで）な条件の下で、制度的、資金的な制約を捨象した場合、最大限どれだけの削減ポテンシャルがあるかについての検討を行った。

この検討結果を受けて、本年2月、地球温暖化防止のための国内対策の在り方を技術的な観点からさらに深く検討するため、中央環境審議会地球環境部会の下に、本小委員会が設置された。本小委員会では、検討会の成果を活用して、各部門ごとの基本的方向性を審議した上で、各対策の削減ポテンシャルを精査し、制度的・社会的制約、副次的効果等を明らかにするとともに、各追加的対策の経済性評価を行い、考えられる対策手法の選択を示して、国内制度小委員会の審議に反映させて行った。

今後、環境省においては、本報告書を参考として、費用や削減量の観点から優先度の高いと判断される対策について、更に具体的な課題を明らかとした上でその推進を図るとともに、京都議定書の目標を達成するため、個々の対策の導入を促す国内制度が構築されることを期待する。

\*)基準年は、二酸化炭素、メタン及び一酸化二窒素については1990年  
HFC、PFC及びSF6については1995年

## 「目標達成シナリオ小委員会」委員名簿

敬称略：50音順

委員長 西岡 秀三	国立環境研究所理事
飯田 哲也	(株)日本総合研究所主任研究員
内山 洋司	筑波大学機能工学系教授
浦野 紘平	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
太田 勝敏	東京大学大学院工学系研究科教授
小高 松男	交通安全環境研究所環境エネルギー部長
木谷 収	日本大学生物資源科学部環境工学科教授
熊崎 實	岐阜県立森林文化アカデミー学長
佐土原 聡	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
大聖 泰弘	早稲田大学理工学部教授
槌屋 治紀	(株)システム技術研究所所長
中上 英俊	(株)住環境計画研究所所長
永田 勝也	早稲田大学理工学部教授
藤井 美文	文教大学国際学部教授
松尾 陽	明治大学理工学部建築学科教授
水谷 洋一	静岡大学人文学部助教授
森田 恒幸	国立環境研究所社会環境システム研究領域 領域長
山地 憲治	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
渡辺 征夫	国立公衆衛生院地域環境衛生学部環境評価室長

## 目標達成シナリオ小委員会 会合の経緯

- 第1回 3月29日(木) 10:00~12:00 東条イパリアパリス 千鳥の間  
目標達成シナリオ小委員会の今後の検討方針について  
地球温暖化に関する最新の科学的知見について  
温室効果ガス削減技術シナリオ策定調査検討会報告について
- 第2回 4月9日(月) 10:00~12:00 東条イパリアパリス 九重の間  
今後の審議の進め方について  
民生部門及び非エネルギー起源二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素における現行  
施策の評価と今後の削減ポテンシャルについて
- 第3回 4月26日(木) 15:00~17:30 虎ノ門パストラル 藤の間  
運輸部門及びHFC等3ガス部門における現行施策の評価と今後の削減ポテ  
ンシャルについて
- 第4回 5月10日(木) 14:00~17:00 東条イパリアパリス 千鳥の間  
エネルギー転換部門及び産業部門における現行施策の評価と今後の削減ポテ  
ンシャルについて
- 第5回 5月31日(木) 14:00~17:00 東条イパリアパリス 扇の間  
関係諸団体からのヒアリング
- 第6回 6月14日(木) 14:00~17:00 東条イパリアパリス 扇の間  
温暖化対策の経済性評価について
- 第7回 6月20日(水) 10:00~12:00 東条イパリアパリス 千鳥の間  
各種モデルによる削減可能性及び中間とりまとめ案について
- 第8回 6月28日(木) 15:00~18:00 東条イパリアパリス 扇の間  
中間とりまとめ案について